



講演する星野技術本部長

弘大の共同研究は昨年11月、国の「革新的イノベーション創出プログラム(COIST REAM)」の採択を受けている。(佐藤彩乃)

高齢化社会への対応 医療関係者70人学ぶ

弘大で講演会

健康に関するビッグデータを分析し、脳疾患などの予防・早期治療に役立てる研究を産学官で進める弘前大学は20日、研究でデータ

解析を担当する医療機器メーカー「GEヘルスケア・ジャパン」(東京都)から講師を招き、弘大医学研究科で特別講演会を開いた。同社執行役員で技術部長の星野和哉氏が「GEのイノベーションと日本の役割」と題し、高齢化社会に対応した同社の事業を説明。「日本のお客さんは見る目が厳しい。一般的なニーズ(需要)を日本で実現すると世界で売れる」と話し、医療関係者ら約70人が耳を傾けた。

星野氏は「情報をいかに賢く役立てるかが企業の競争力を左右する。人々の健康を守るという点で今あるデータを役立てることは非常に大きなテーマで、研究への参加は意義深い」と話した。